

第4回 校長会議あいさつ

R8.6.19 稲垣

紫陽花の葉に、カタツムリかアマガエルというのは、この時期の定番と思っていましたが、最近あまり見かけなくなりました。童謡に「…… ぴちぴち、ちゃぷちゃぷ、ランランラン」とあるように、雨の日には雨の日なりの楽しみを見つけられるのは、健やかな子どもの特権です。水たまりを蹴飛ばしながら登校してくる子どもたちは、梅雨に挑んでいるのかもしれません。日常にある小さな逆境に負けない子どもたちを褒めてあげましょう。

本日は、先月に続いて「学校経営の要所」についてお話しします。

児童生徒への教師の働きかけは、指導面と管理面に大別されます。発達段階に応じて、学年が上がるほど、管理面から指導面に比重がシフトしていくイメージは、ご存知のことと思います。学校経営にも指導面と管理面がありますが、多様化・複雑化する教育課題に対応していくためには、今まで以上に管理面にも腐心する必要があると思われます。避難訓練についても、火事や台風、地震(授業中+放課時等)に加えて、津波や不審者など、想定を増やすことになりました。昨今、生徒指導等では組織対応が重視され、子どもたちをより多くの教員で見守り、指導していくために、チーム担任制も導入されました。教員の指導力向上に加えて組織対応の強化が求められています。

学校は、さまざまな職種の人たちの協働によって支えられています。その中で、栄養教諭、事務職員、図書館司書、ALT、用務員などの一人職も、学級運営上、それぞれ重要な役割を担っています。また、この人たちは、仕事上の相談相手が近くにいない不安感やストレスを抱えていることもあります。そこで、職種ごとの研究会や連絡会等によって同僚性を確保するとともに、資質向上や相互補助機能を高めていくことが大切になります。校内においても、学年部への所属を促したり、職員間のコミュニケーションに自然に入れるように配慮したいです。また、業務負荷に応じて、管理職面談によるケアや業務のチェック機能を設けることも必要です。特定の仕事を個人に任せ切りにすることなく、常に組織の一員として有機的に動くことを全教職員に共通理解させ、力強いベクトルを生み出すことによって、難局を乗り越え、学校現場の抱えるさまざまな課題に対応していけるものと考えます。